

# 三浦半島周辺の大岡作品 見学記

【法蔵院】/横須賀市/本堂、庫裏、客殿の設計及び総門の監修

2021.4.14~16

総門/監修物件/木造/施工は鈴木社寺工務所/前方に本堂の屋根が見える

[video](#)



# 浄土宗 五劫山法蔵院 阿弥陀寺

## 由緒

当寺は元久元年（西暦一〇四年）土御門天皇の御代、源実朝の頃、天台宗の耆宿、聖覚法印の高弟、明円上人により開創され、後法然上人の教えを信奉して浄土宗に改められたと伝えられております。（史実不詳）

元 京都 総本山 知恩院の直末でしたが、貞享年中（一六八六年頃）鎌倉光明寺の末寺となったようです。

由緒によりますと、弘治・永祿の頃（一五五六〜五八年）房総を掌握していた里見氏が勢力拡大のために、小田原、北条氏との抗争で、三浦侵略を繰返し、その戦場となり兵火のために、諸堂宇は灰燼に帰されました。その際、里見氏は三浦城の攻略が出来ないまま、当寺の仏像、梵鐘等を持ち去りましたが、途中海が荒れて仏像を海中に投げ捨てて逃げ帰りました。この仏像は三浦、菊名の里に流れ着き、無事当寺に帰ることが出来、その縁で菊名の里に現在も檀家数拾戸があります。そのお檀家の便利を計って、建立したのが永楽寺であると伝えられております。

北条氏は当寺の諸堂宇の焼失を嘆き学問所をここに移建して改築し、九間半・七間半の本堂を建立しました。

その後、元禄十二年（一六九九年）総門が建立され、何度か再建されておりますが、龍の彫刻は創建当初のもので、「荒れ狂う波間に龍を配し、その裏には梅と二羽の雉が彫られております」。この龍は時化の夜に、海上を泳いで対岸の房州（千葉県）に渡るといふ伝説があり、そのため、龍の左眼には「目打ち」として五寸釘が打たれていると伝えられております。一説に左甚五郎（一六三四年亡）作との説もあります。

嘉永年間（一八四七年）鎌倉光明寺の山門改築の際、旧山門を移築して建立したといわれる山門（間口七間、奥行二間の楼門）がありました。

元 子院として山内に、雲光院と真珠院が、末寺に、往生院、円乗院、永楽寺、雲川寺、長沢、浄慶寺などがありました。

関東大震災にて、総門と庫裏を残して全壊。本堂の古材を売却して、山門の古材にて大正十二年に仮本堂を建立。その後昭和四十七年に本堂の再建、昭和五十五年庫裏、昭和六十年客殿、昭和六十三年に総門が再建され現在に至っております。

年中行事に、正月元旦 修正会、一月二十三日 御忌法要、五月八日 花祭り、八月十七日 施餓鬼法要、秋季彼岸中日法要、十一月八日・九日 十夜法要等があります。

特に、十夜法要は、鎌倉光明寺第八世観誓祐崇上人が後土御門天皇の勅許を頂いて奉修されました「鎌倉光明寺の十夜法要（一四九五～一五〇〇年）」を、その後長井、不断寺、三崎、光念寺、当山の三カ寺にお許しをいただいて勤修されはじめた因縁の深い法要です。その故か、三浦三市（武山不動縁日・宮田の神事相摸）の一つとしてその名が知られ大変賑やかに勤められております。

平成十二年七月 当山第五十四世住職 照誉政雄 記

奉納

東部産業株式会社

社長 柳澤 信男

鹿嶋市笹本刻

本堂/屋根は大岡實の意匠上の特徴である鍔葺となっている

 [video](#)



鍔葺については右のホームページを参照してください。

[設計理念 大岡實建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](http://ohoka-inst.com)

最近、屋根の葺き替えが行われたと云う

[video](#)



大岡實は「鍔葺の場合、上方の部分は矩勾配(45°)に近く下方の部分は四寸～五寸の緩い勾配で、その結果は上方の屋根は屹立性が強く鋭い感じを持っているが周囲の勾配の緩い屋根がこれを受けて安定感を与えるのに役立っているのであって、極めて巧みな意匠である」と述べている

[video](#)



側面からその形態を見たときに、屹立性が崇高性を感じさせる

 video













小屋組及び軒先は木造となっている

 video



小屋組や軒先も基本的にはRC造として設計されたのだが、幾つかの作品ではどのように木造を取り込めるかの試行錯誤が行われた/ホームページ参照  
[真光寺 本堂 大岡寛建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](http://ohoka-inst.com)  
[法安寺 本堂 大岡寛建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](http://ohoka-inst.com)

組物はRC造に適した手法として、挿肘木(繰型付の軒下腕木を長押が受けた形式)を採用している



挿肘木については右のホームページを参照してください。

[設計理念 大岡寛建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](http://ohoka-inst.com)







左手が客殿、右手は庫裏/軒先だけであるが、本瓦を使って緩やかな軒反りを演出し、本堂との調和を図っている

[video](#)





客殿入口/左手が本堂





車庫前に付き 駐車禁止

庫裏入口



側面から見た庫裏

 [video](#)



なお、法蔵院の詳細についてはホームページを参照してください。

[法蔵院 本堂 大岡寛建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](http://ohoka-inst.com)

【長安寺】/横須賀市/鐘楼を手始めに庫裏、客殿・廻廊、築地塀、車庫、山門、本堂、六地藏堂、そして手水舎と伽藍全体の設計をしている

山門

[video](#)





正面前方が本堂/鍩葺の屋根となっている

[video](#)





小屋組も軒先も全てRC造

 video





妻壁は二重虹梁大瓶束となっている











右手は客殿

 video













大岡寛独特の挿肘木の手法を用い、これを持送風に取り扱って軒を支え、随所に簡単な繰形を整えている/尾垂木を斜めにせず水平に扱って変化ある形を演出している

[video](#)





正面は客殿の屋根

[video](#)







こちらは本堂の背面の軒先/左手から右方向に見たところ

 video



一軒となっている



こちらは左側面の軒先で、挿肘木形式の二軒







客殿





正面は庫裏/左手が客殿



手水舎/木造/施工は鈴木社寺工務所





鐘楼/木造/施工は鈴木社寺工務所





六地藏堂/木造/施工は鈴木社寺工務所





境内側から見た山門



なお、法蔵院の詳細についてはホームページを参照してください。

[長安寺 本堂 大岡寛建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](http://ohoka-inst.com)

【西徳寺】/横須賀市/鐘樓の設計

手前の道路を左手に少し行くと、そこは海(東京湾)

 video



境内の裏山には、幕末期に江戸湾の防備のためにこの地に赴いて、ここで亡くなった会津藩士が祀られているようだ

## ◆西徳寺

鎌倉の光明寺の末寺として、永禄三年（一五六〇）法誉順性上人により開かれました。

当時、真言宗の源徳寺、浄土真宗の無量庵、浄土宗の東光寺、及び寿経寺の四ヶ寺を併合し、東光山無量寿院西徳寺と、改められました。

境内には、三浦一族の武将、和田義盛が出陣に際し、戦勝を祈願したと伝えられる「和田地蔵」が祀られています。

裏山には、義盛の剃刀塚や幕末期に江戸湾の防備のために、この地に来た会津藩士の墓十一基があります。

## ㊦会津藩士の墓

日本の沿岸に、異国船が相次いで姿を現すようになりました。毎日のように、各地から早馬が江戸城めざして駆け上がります。民衆の心も不安に揺れ動いてきました。

文化七年（一八一〇）二月二十六日、幕府は、外国船の来航に備え、台場の建造を白河藩と会津藩に命じます。民衆の不安を取り除くこともねらいの一つでした。白河藩は千葉沿岸を、会津藩は三浦半島沿岸を警備することになりました。

会津藩は、走水、浦賀、城ヶ島の三か所に台場を造ると同時に浦賀の観音崎と平根山、それに三崎の北条山に陣屋を設けて外国船に備えました。

会津から、はるばると、この見知らぬ任地に大勢の武士がやってきました。ある者は単身で、また、ある者は家族をひきつれて任務につきました。それらの人々の子弟を教育するため、三崎に集義館を、観音崎に養成館という藩の学校を建てました。養成館には、約四十名の生徒がいたと記録されています。文政三年（二八二〇）十二月二十八日、沿岸警備の任務が、会津藩から浦賀奉行に移りました。

しかしその十年間に、病没した藩士やその家族四十八名が、走水の円照寺（日蓮宗）、鴨居地区の腰越墓地、能満寺（曹洞宗）や、ここ西徳寺（浄土宗）の墓地に葬られました。厳しい生活であったことがうかがえます。

毎年秋の彼岸には、会津在住の子孫や市内の県人会の有志が、この西徳寺を訪れて法要を営んでいます。

これが本堂左手に所在する鐘楼/木造/施工は鈴木社寺工務所

[video](#)



左手から見たところ

 video









屋根は振れ隅にしている



なお、西徳寺の詳細についてはホームページを参照してください。

[その他の神社・寺院他作品の紹介 Ⅰ 鐘楼 Ⅱ 収蔵庫・覆堂 大岡實建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](#)

【信誠寺】/横須賀市/庫裏・客殿の設計

前方に信誠寺の石段が見える



ここにも、幕末期に江戸湾の防備のためにこの地に赴いて、ここで亡くなった川越藩士が祀られているようだ

### 信誠寺しんじやうじ（浄土真宗）

本願寺派の末寺で本尊は阿彌陀如来です。

境内の「逆さ銀杏」は蓮如上人が杖を逆さに差したところ枝葉が繁茂したいわれ祈願をすると乳の出が良くなる信仰が伝えられています。

「竜灯木古跡」には海中から火の玉が飛んできて木の梢で燃え続けたのを人々は竜灯と呼び大津の港の目印になったという伝説があります。

山門下には江戸湾沿岸を防備した川越藩士の墓、墓地の奥正面には

初代三浦郡長を務めた小川茂周の墓があります。

幕末期に寺子屋が設けられ明治十年（一八七七）大津小学校ができるまで寺の庫裡には小学校の前身となった郷学校が置かれていました。



昔の信誠寺

正面が庫裏・客殿

[video](#)



右手から見たところ

[video](#)



左手に回って、庫裏・客殿を見下ろしたところ



軒先だけであるが、本瓦を使って緩やかな軒反りを演出している

 [video](#)



なお、信誠寺の詳細についてはホームページを参照してください。

[その他の神社・寺院他作品の紹介](#) [その他 3](#) [Ⅲ庫裏・客殿](#) [Ⅳその他諸設備](#) [Ⅴ木造物件](#) [Ⅵ監修物件](#) [大岡貫建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](#)

【常勝寺】/横須賀市/本堂、山門、手水舎の監修

[video](#)





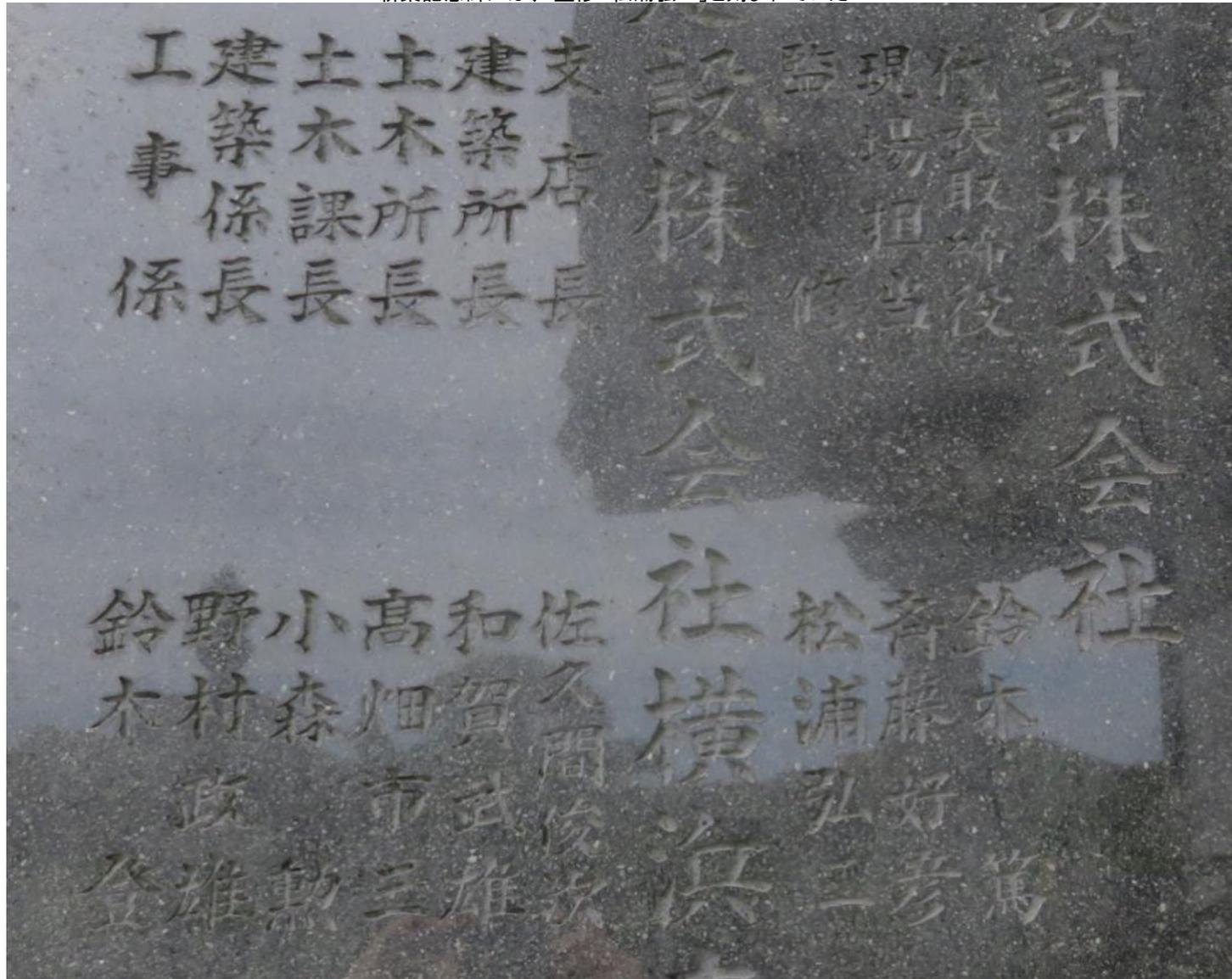
本堂/木造

 video





新築記念碑には、「監修 松浦弘二」と刻まれていた



右手から見たところ













本堂内陣の彫刻欄間/富山県井波出身の松浦弘二が、故郷の伝統工芸の発展の一助として紹介した井波彫刻協同組合が制作した

[video](#)



山門



## 手水舎



なお、常勝寺の詳細についてはホームページを参照してください。

[その他の神社・寺院他作品の紹介](#) [その他 3](#) [Ⅲ庫裏・客殿](#) [Ⅳその他諸設備](#) [Ⅴ木造物件](#) [Ⅵ監修物件](#) [大同貫建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](#)

【雷神社】/横須賀市/社殿の設計

[video](#)



石段の上に、黄色い社殿の屋根が見える



独特な形をした社殿の屋根

 video



巖島神社の祓殿を彷彿とさせる

 video











左側面

 video



垂木の先端には大仏様の特徴である鼻隠板が回る



斗拱は大斗形式の一手先で丸桁を受けている/大斗には括れがあるのだが、RC造の場合は木造と違って柱の構造断面が括れの部分で決まり、強度を確保するには不経済でも柱の断面を大きくしなければならない/そうすると他の部材とのバランスを整えることができないため、ここでは柱は大面取りとして、他の部材とのバランスの違和感を救っている/中備は間斗東に雲型の鰭が付く変わったデザインとなっている





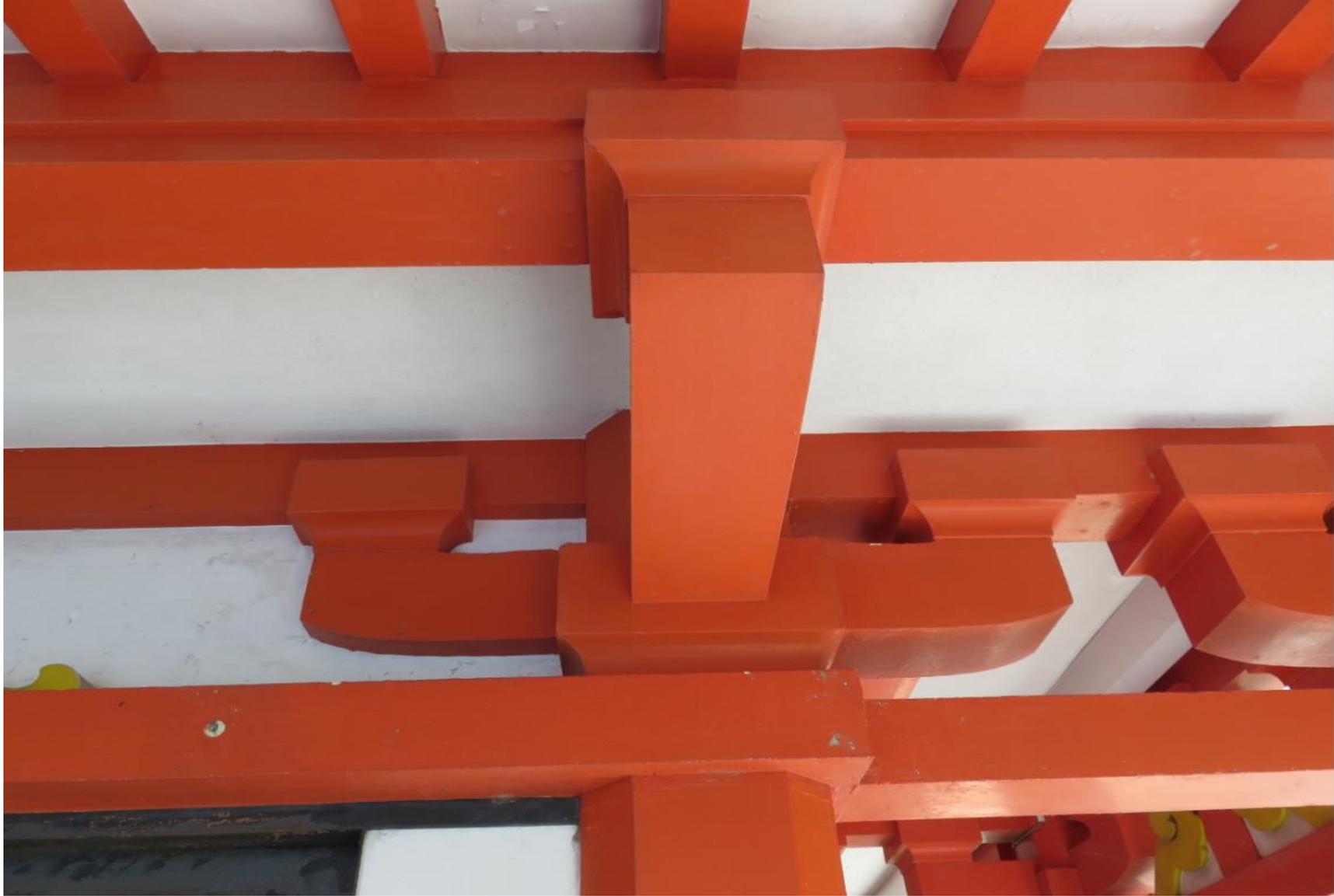
右側面

 video





こちらでは大斗の下の貫は長押状になっており、柱巾と括れ部巾が同幅である違和感を救っている/同様の目的で大斗の下に皿斗を設ける例もある







傍にはこんな小祠もあった



なお、雷神社の詳細についてはホームページを参照してください。

[雷神社 社殿 大岡實建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](http://ohoka-inst.com)

浄土庭園とされる称名寺の庭園と苑池に浮かぶ反橋・平橋を大岡實建築研究所が設計している

# 国指定史跡 称名寺境内



指 定 大正11(1922)年10月12日 63,956 m<sup>2</sup>  
追加指定 昭和47(1972)年 1月31日 91,289 m<sup>2</sup>  
管理団体 横浜市

金沢山称名寺は、十三世紀半ばに創建された金沢北条氏一門の菩提寺で、「木造弥勒菩薩立像」(鎌倉時代、重要文化財)を本尊としています。もとは、鎌倉幕府の重臣北条実時(一二三四～二七〇)が邸宅内に設けた阿弥陀堂から始まったと言われ、初めは念仏の寺でしたが、のち真言律宗に改められました。二代顕時(一二四八～一三〇〇)が受け継ぎ、三代貞顕(一二七八～一三三三)の時代に大規模な造営が行われました。元亨三(一二三三)年「称名寺絵図」(重要文化財)には、苑池のまわりに七堂伽藍を配置した最盛期の称名寺の様子が描かれています。

また、寺に隣接して設置された文庫には、貴重な文物が収集されていました。その一部は、寺と神奈川県立金沢文庫に継承されています。大正十一(一九二二)年、「称名寺絵図」に描かれた結界域と歴代金沢氏・住職の墓域が、ついで昭和四十七(一九七二)年には背後の山稜部や惣門付近が国の史跡に指定されました。

平成二十五年三月  
神奈川県教育委員会  
横浜市教育委員会

正面は仁王門/江戸時代後期の再建

 video



その向こうに反橋が見える



## 称名寺庭園

称名寺の庭園は、元亨三年(1323)に描かれた重文「称名寺絵図並結界記」によって、伽藍の配置と共に完成時の姿を知ることができます。

庭園は、金沢貞顕の時代の文保三年(1319)から、翌年の元応二年にかけて造られました。

作庭には性一法師が携わり、青嶋石を使用した90数個の景石を、中島や池の周囲に大量の白砂と共に配置することなどを指示し、その満々と水が注がれた苑池には貞顕から贈られた水鳥が放され、ここに伽藍の美観の要とされる浄土庭園の完成が見られました。

苑池は金堂の前池として、浄土思想の荘嚴のために設けられたもので、南の仁王門を入り、池を東西に二分するように中島に架かる反橋と平橋を渡って金堂に達するようになっています。

このような配置は、平安時代中期以降盛んになった、浄土曼荼羅の構図に基づき造られた浄土庭

園の系列にあるもので、称名寺の庭園は、時代的に浄土庭園の基本的な形態を残す最後のものとして、庭園史上高い評価を得ております。

平成5年3月

横浜市教育委員会  
史跡称名寺境内愛護会



重文 紙本淡彩「称名寺絵図並結界記」

反橋

 video





前方が平橋

 video



平橋/その前方に見えるのは江戸時代前期再建の金堂

[video](#)





平橋を渡って、振り返って見たところ

[video](#)











なお、称名寺の詳細についてはホームページを参照してください。

[称名寺反橋・平橋 再建・復元作品 大岡寛建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](http://ohoka-inst.com)

【光明寺】/鎌倉市/庫裏本坊、書院の設計

大岡實建築研究所が庫裡本坊等(鉄筋コンクリート造、二階建て)と書院・対面の間(木造)を設計している

- 宗派 浄土宗
- 山号寺号 天照山蓮華院光明寺
- 創建 寛元元年(1243)
- 開山 然阿良忠上人
- 開基 北条経時



# 光明寺

Komyoji  
光明寺  
고묘지



本堂前のサクラ  
Cherry trees in front of the main hall  
正殿前的櫻花  
본당 앞의 벚꽃

材木座に所在する光明寺は、江戸時代には浄土宗関東十八檀林の第一位として格付けされた格式の高い寺院です。開山は記主禅師然阿良忠、開基は鎌倉幕府の第四代執権北条経時で、仁治元年(一二四〇)鎌倉に入った良忠のために、経時が佐助ガ谷に寺を建てて蓮華寺と名づけ、それが寛元元年(一二四三)に現在地に移り光明寺と改められたと伝えます。

元禄十一年(一六九八)建立の本堂は、国指定重要文化財。また、弘化四年(一八四七)建立の山門は、県指定重要文化財。ことに本堂は、鎌倉で現存する近世仏堂のうちでも最大規模を誇ります。当寺は今なお、建長寺、円覚寺と並ぶ壮大な伽藍を構成しています。

十月十二日から十五日の間に行われる「十夜法要」の行事は今でも、夜市がたち大勢の人で賑わいます。



**参拝の心得**

かならず大殿(本堂)で御本尊(阿弥陀如来)にお参りしましょう。

ご朱印は寺務所にてお申し込みください。

鐘楼堂(鐘撞き堂)には上がらないでください。

ゴミはお持ち帰りください。

参拝時間

4月1日～10月14日 6:00～17:00

10月15日～3月31日 7:00～16:00



山門の二階の廻り縁から見た庫裏本坊

 video



アップで見たところ



本堂は「令和の大改修」のための素屋根を架ける工事中

[video](#)



前方が書院



書院/左手は庫裏本坊

 video



庫裏本坊



妻飾りは二重虹梁墓股







書院・対面の間



なお、光明寺の詳細についてはホームページを参照してください。

[その他の神社・寺院他作品の紹介](#) [その他 3](#) [Ⅲ庫裏・客殿](#) [Ⅳその他諸設備](#) [Ⅴ木造物件](#) [Ⅵ監修物件](#) [大同貫建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](#)

【延命寺】/逗子市/本堂の設計

前方が逗子延命寺本堂

 [video](#)



「逗子の地名発祥の寺」と刻まれた標柱が立っていた



敷地の関係で、屋根は妻入の重層入母屋造向拝付となっている/屋根の両サイドに千鳥破風が見える

[video](#)



側面(平側)には千鳥破風を設けて、単調なデザインとならぬよう配慮している





背面を見たところ

[video](#)









軒廻りはRC造の特性を生かした挿肘木形式が採用され、垂木は省略されて板軒となっている















下層の挿肘木の形は大仏様の雰囲気であるが、上層の挿肘木の形は雲形をしている



境内には相模三浦氏一族の墓や湘南七福神の厨子弁財天堂などがある

 [video](#)



なお、延命寺の詳細についてはホームページを参照してください。

[延命寺 本堂 大岡寛建築研究所 \(ohoka-inst.com\)](http://ohoka-inst.com)